

大学教育再生加速プログラム(AP) 事後評価結果

整理番号	67	大学等名	東北公益文科大学
テーマ	テーマV 卒業時における質保証の取組の強化		

（「大学教育再生加速プログラム委員会」による評価）

【総括評価】

A：計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。

【コメント】

大学改革の加速については、教学マネジメントと学生の学びのマネジメント双方のPDCAに関するテーマI～Vまでの関係性を整理し、入口（入学前後）から入学後、出口（卒業）に関する各種取組について総合的にPDCAサイクルを回しながら推進している点は評価できる。また、これまでの大学改革の取組の結果として、入学者が増加し定員を満たしたことは高く評価できる。一方で、卒業時の質保証の取組の推進に対して有益であった改革として挙げられている「105分授業の導入」「学部修士5年一貫教育プログラム」及び「ベストティーチャー・ベストアワードの創設」の取組は、それぞれチャレンジングな施策であると思うが、卒業時の質保証にどのような影響があるのか不明確であることから、その因果関係を明確化するとともに、継続的な事業実施に努めることが求められる。

事業の具体的な取組の進捗状況については、ディプロマ・ポリシーに定める4つの力を細分化した「公益大22の力」を設定し、それぞれの到達状況を5段階で記述したループリックが作成され、このループリックを用いた学生による自己評価及びインターンシップにおける他者評価を実施した。これらの取組の結果として、必須指標のうち「学生の成績評価[GPA平均]」及び「質保証に関するFD/SDの参加率」、任意指標のうち「インターンシップ参加者数」「ループリックによるディプロマ・ポリシーの各スキルの評価値の平均値」及び「ステークホルダが参加する授業の延べ履修者数」が目標値を達成したことは十分評価できる。一方、必須指標のうち「学生の授業外学修時間」及び「進路決定の割合」、任意指標のうち、「『大学教育に満足している』学生の割合」「長期学外学修プログラム参加者数」「アセスメントテストの実施率」及び「ポートフォリオ活用授業数」は目標値に未達であることから、引き続き努力することが望まれる。

事業の定着に向けた実施体制及び継続のための取組状況については、学長の強いリーダーシップの下、独自の第3次教学中期計画と本事業が連動しており、自己評価、外部評価共に体制が適切に整備されている。また、本事業のテーマ別評価の観点から独自のKPIを再整理し、それぞれの活動実績及び成果実績のKPIを管理するとともに次年度に向けた活動に反映していることから、PDCAサイクルが機能していると評価できる。さらに、補助期間終了後については、自己資金や寄附助成で本事業の継続が可能であると見込まれる点も評価できる。

事業成果の普及については、独自かつチャレンジングなクォーター制及び105分授業を導入したことで、研究会や学会報告のみならず、マスメディアからの取材や雑誌掲載等において先駆的な取組として注目されていることに加えて、学内で開発したポートフォリオを無償公開していることは高く評価できる。